

◆ 自衛官を志して 初志貫徹



戦車長としての指揮（筆者は左上）

自衛隊の存在を知る大きなきっかけは「東日本大震災」です。当時、小学5年生であった私は被災地で住民の方々を救助する姿、避難先で野外炊事や入浴支援を行う姿を見て「カッコいい」、「私も必要とされる人になりたい」と感じ、防衛大学校に入校しました。

現在は、戦車小隊長として国防という使命を果たすために操縦訓練、射撃訓練、冬季戦技訓練などを計画し、部隊を強くすべく隊員とともに奮闘しています。戦車の「カッコよさ」に魅了されながら、命を預け合う仲間と共に訓練に励み、充実した日々を送っています。

今後の抱負は「隊員に必要とされる指揮官になる。」です。

初めに抱いた志を最後まで。



冬季戦技訓練（スキー）

なかがわ なつき
3等陸尉 **中川 夏希**
① 第11戦車隊（北恵庭駐屯地）
② 機甲科

私は、国民と国のために奉仕する仕事がしたいと思い、憧れていた祖父が海上自衛官だったこともあり海自に入隊しました。現在は鹿屋航空基地の第1整備補給隊で勤務しています。業務内容は主に、P-1哨戒機の電子機器の搭載・取り外し、機器に不具合が生じた際の復旧作業、手先信号を使った航空機誘導などです。



航空機の誘導を行う筆者

たけいち こうだい
1等海士 **武市 昂大**
① 第1航空群 第1整備補給隊（鹿屋航空基地）
② 航空電子整備要員（航空士）

電子機器は哨戒機の活動において必要不可欠なものであり、機器の状態が任務達成の可否に大きく影響するので、整備の際は配線などに細心の注意を払い、整備後のチェックも必ず行います。そのため、不具合無しで帰ってきた航空機を見ると、私たちも任務達成に貢献できたという思いで、達成感と職務に対する誇りが湧いてきます。

これからも、国民の皆様と国のために誠心誠意、職務に邁進していきます。



任務達成を目指して

交換する電子機器の搭載作業を行う筆者

◆ 入隊10年 私は今 10年間の感謝



器材整備中の筆者

見ると育児にもやる気が湧き、仕事にも身が入り、夫婦で充実した日々を送っています。今後も、国民のため家族のため、自分らしい自衛官として任務に邁進していきます。

私は、東日本大震災で活動している自衛官に感銘を受け入隊しました。地上無線整備員として多くの現場で活躍し、貴重な経験ができ、これまで関わった上司と仲間には非常に感謝しています。現在は、高射部隊の無線器材の整備をする傍ら、部隊の情報システムを管理しています。また、入隊時には考えられなかったのですが、今では家庭を持ち、妻の理解と支えを受けながら仕事ができおり、妻には非常に感謝しています。そして、子宝にも恵まれ、わが子



情報システム関連業務中の筆者

しんざと としゆき
3等空曹 **新里 寿之**
① 南西高射群指揮所運用隊（那覇基地）
② 地上無線整備